「*多発肋骨骨折患者に対する早期肋骨固定が及ぼす影響の検討*」に関するお知らせ

このたび、当院の高度救命救急センターで多発肋骨骨折で入院された患者さんの電子カルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、*総合医療センター研究倫理委員会*の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

西暦 2018 年 4 月 1 日～2023 年 6 月 30 日の期間に埼玉医科大学　総合医療センター　高度救命救急センターに外傷で入院された患者さんのうち、多発肋骨骨折と診断され入院した患者さんを対象としております。

２．研究の目的

肋骨骨折は外傷患者において頻度も高い疾患で外傷に関わる医師にとって対応することが日常的な疾患です。肋骨骨折の中でもフレイルチェストや多発肋骨骨折は挿管・人工呼吸器管理に至ることが多く、その疼痛管理に難渋し、集中治療室の滞在期間が長くなり、人工呼吸器関連肺炎の増加や気管切開率の増加、最終的には外傷の長期予後の低下に寄与していました。多発肋骨骨折に対する肋骨固定術と保存的加療を行なった群を比較し、前述したような胸部外傷の合併症のリスク因子の同定や肋骨固定の有用性を示したいと考えています。今回の研究結果や得たデータを元に今後は既存のリスク評価よりも精度の高い予後予測評価スコアを作成したいと考えております。

３．研究期間

病院長の許可後～2027 年 03 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2023 年 11 月 1 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

埼玉医科大学　総合医療センター　電子カルテより多発肋骨骨折により入院した患者に対して年齢、性別、Rib スコア（肋骨骨折の本数、両側性の骨折の有無、フレイルチェストの有無、3 本以上の肋骨の偏位、第一肋骨骨折の有無、骨折部位（前方、側方、後方））、挿管・人工呼吸器管理の有無、挿管に至った際の PaO_2/FIO_2 比、人工呼吸器離脱までの日

数、肺炎の合併の有無、気管切開の有無、合併する他部位の外傷、肋骨固定に至るまでの日数などを主たる評価項目として抽出します。

※この研究で得られた患者さんの情報は、*埼玉医科大学　総合医療センター　高度救命救急センター*において、研究責任者である今本　俊郎が管理いたします。

２．試料・情報の取得方法

多発肋骨骨折と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学　総合医療センター　高度救命救急センター

医師　講師 今本 俊郎　講師 松田真輝　准教授 森井北斗　教授 井口浩一　教授 澤野誠

４．試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学　総合医療センター】　病院長

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学　総合医療センター　高度救命救急センター　　今本　俊郎

住所：〒350-8550 埼玉県　川越市　鴨田 1981 番地

電話：049-228-3755（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：d.toshiro1046@gmail.com

〇研究課題名：多発肋骨骨折患者に対する早期肋骨固定が及ぼす影響の検討

〇研究責任（代表）者：埼玉医科大学　総合医療センター　高度救命救急センター　今本 俊郎